

水への関心有無による水意識

本調査では、これまで各設問に応じて、性別・年代別・居住地別などによる差異を交えてレポートしてきましたが、水への関心がある人とない人では、どのような違いがみられるのでしょうか。ここでは、今年調査したいくつかの設問について、関心の有無別による結果を紹介します。

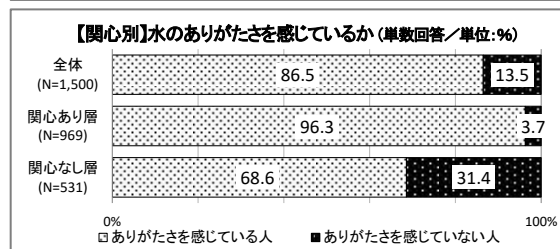
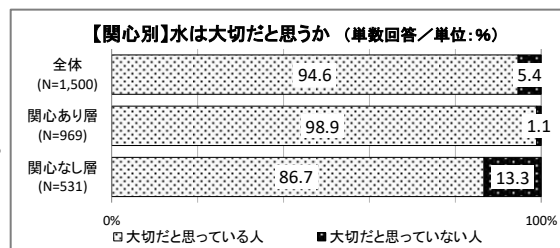
Q.【関心別】水は大切だと思うか？（6択）

Q.【関心別】水のありがたさを感じているか？（6択）

◇水への“関心あり層”は「大切さ」「ありがたさ」をより感じている。

“関心なし層”は、ありがたさを感じていない人が3割超。

関心の有無別に、水は大切だと思うかをみると、“関心あり層”は“大切だと思っている人”の割合が98.9%、“関心なし層”（「あまり関心がない」+「関心がない」+「全く関心がない」）では86.7%となり、両者には12.2ポイントの差がありました。水へのありがたさを感じているかについては、“関心あり層”の“ありがたさを感じている人”が96.3%、“関心なし層”が68.6%で、その差は27.7ポイントと、さらに広がりました。言い方を変えれば、“関心なし層”の3割以上は、水へのありがたさを感じていないということになります。

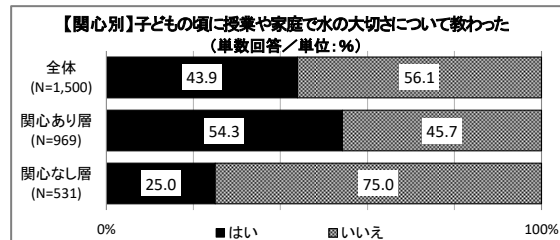
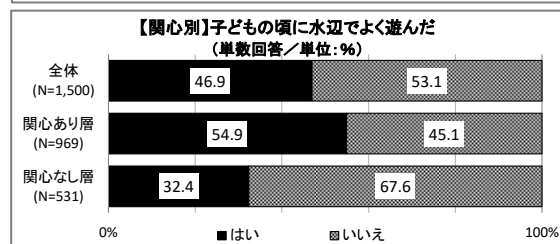
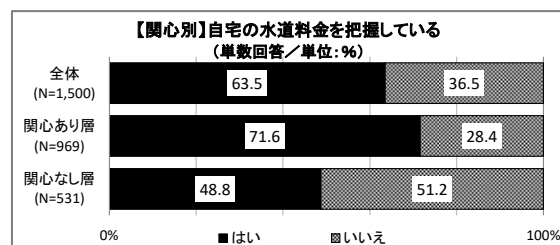


Q.【関心別】水に関する体験や経験の有無は？

（それぞれ2択）

◇水に関心がある人の原体験は、子どもの頃に受けた水の教育？

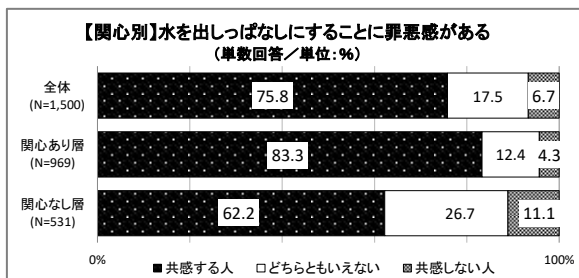
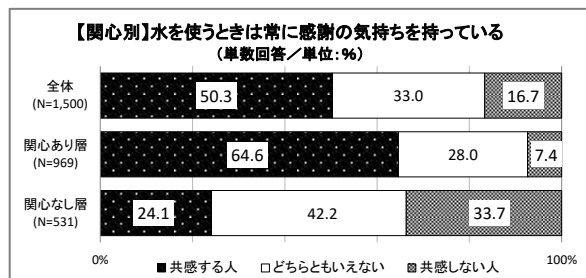
水にまつわる体験や経験について、“関心あり層”は「自宅の水道料金を把握している」（71.6%）、「子どもの頃に水辺でよく遊んだ」（54.9%）、「子どもの頃に授業や家庭で水の大切さについて教わった」（54.3%）の3項目で半数以上の経験がありました。一方、“関心なし層”は、「自宅の水道料金を把握している」（48.8%）、「子どもの頃に水辺でよく遊んだ」（32.4%）、「子どもの頃に授業や家庭で水の大切さについて教わった」（25.0%）など、いずれも大きな差がみられました。中でも、「子どもの頃に授業や家庭で水の大切さについて教わった」は、“関心あり層”が“関心なし層”を30ポイント近く上回っており、子どもの頃に水の大切さを学んだことが、水に関心がある人の原体験になっていることをうかがわせる結果となりました。



Q.【関心別】水に関する考え方への共感度は？（それぞれ5択+どちらともいえない）

◇“関心なし層”は、水への感謝は無いが、出しっぱなしには罪悪感。

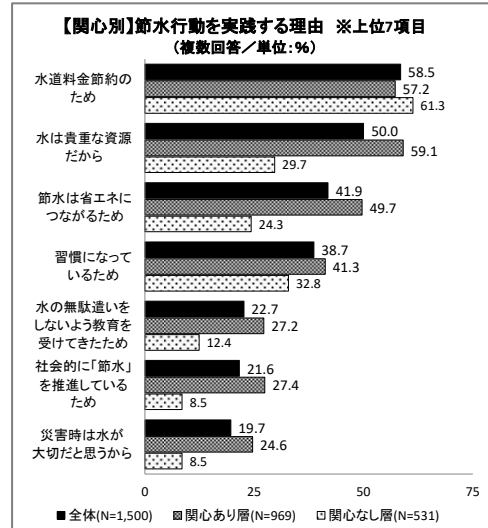
水への関心の有無別に、①「水を使うときは、常に感謝の気持ちを持っている」と②「水を出しっぱなしにすることに罪悪感がある」の“共感する人”（「とてもそう思う」「そう思う」「ややそう思う」の合計）をみると、①は“関心あり層”が64.6%、“関心なし層”が24.1%、②はそれぞれ83.3%、62.2%でした。“関心なし層”は、①が4人に1人なのに対し、②は3人に2人が共感していることから、水への感謝の気持ちは無くても、水の無駄遣いに対する罪悪感は多少なりともあるようです。



Q.【関心別】節水行動を実践する理由は？（13択+その他+理由はない）

◇“関心あり層”は地球環境、“関心なし層”は家計をより重視？

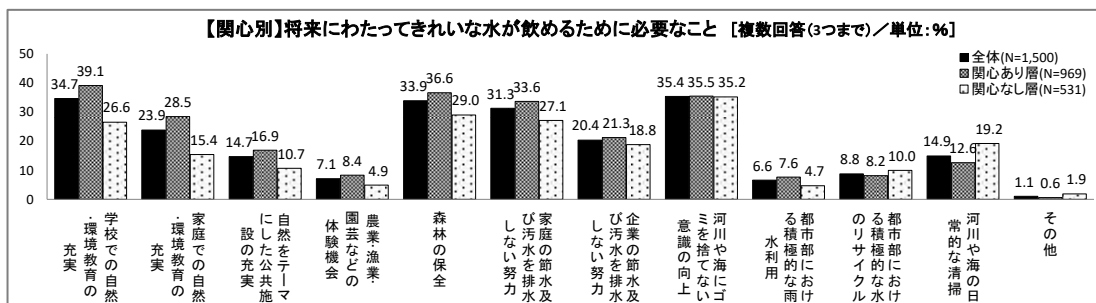
節水行動を実践する理由について、水への関心の有無別にトップ3を比較したところ、“関心あり層”は1位「水は貴重な資源だから」（59.1%）、2位「水道料金節約のため」（57.2%）、3位「節水は省エネにつながるため」（49.7%），“関心なし層”は1位「水道料金節約のため」（61.3%）、2位「習慣になっているため」（32.8%）、3位「水は貴重な資源だから」（29.7%）となりました。この結果からは、“関心あり層”は地球環境をより重視し、“関心なし層”は家計をより重視するという、両者の節水に対する考え方の違いを垣間見ることができます。



Q.【関心別】将来にわたってきれいな水が飲めるために必要なことは？（11択+その他）

◇“関心なし層”は川や海的美観を重視？

将来にわたってきれいな水が飲めるために必要なことは、「河川や海にゴミを捨てない意識」で“関心あり層”（35.5%）と“関心なし層”（35.2%）がほぼ同様の数値、「河川や海の日常的な清掃」では“関心なし層”（19.2%）が“関心あり層”（12.6%）を上回るなど、水辺的美観を保つことに対する“関心なし層”の関心の高さがうかがえる、興味深い結果がみられました。これらの項目については、今後の数値の変化に注目したいところです。



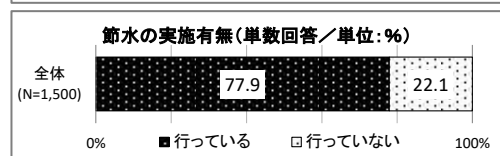
節水の意識と行動

Q.日常生活で節水を意識しているか？（2択）

Q.日常生活で節水を実施しているか？（2択）

◇節水意識と行動、ともに昨年を大きく上回る。

節水への意識と行動は、節水を「意識している」が79.3%で昨年（66.3%）から13ポイント増加、節水を「行っている」が77.9%で昨年（66.6%）から11.3ポイント増加と、いずれも昨年を大きく上回りました。この結果は、原材料価格などの高騰による昨今の値上げラッシュも少なからず影響しているかもしれません。



Q.日常生活で実践していることは？（14択+その他+実践していることはない）

◇各項目の取り組み率がやや上昇。

節水や水の再利用方法に関する項目を選択肢にあげ、日常生活で実践していることとして聞いたところ、1位「歯磨き中に水を出しっぱなしにしない」（68.0%）、2位「シャワーを浴びるときにこまめに水を止める」（62.5%）、3位「水洗トイレの大小レバー・ボタンを使い分ける」（40.8%）、4位「水洗トイレで消音のための水を流さない」（35.7%）、5位「風呂の後のお湯を洗濯や掃除等に使い回す」（33.1%）となり、これらの項目は、いずれも昨年より数値が増加。前述の節水実施率の上昇とともに、その取り組み率も上がっていることがうかがえる結果となりました。なお、昨年4位だった「食器を洗うときは水を流しっぱなしにしないようにしている」は、今回6.8ポイント減の24.1%で7位でした。